

本通じ夢後押し10周年

被災地の子どもたちに図書カードを贈る盛岡市のブック・エンド・ドリーム・プロジェクト(紺野衆代表)が活動10周年を迎えた。元高校教諭の小山卓也さん(85)＝同市Ⅱが描いた三陸の海を表紙絵にしたノートの販売益金を活動費に充て、12小中学校への寄贈は2巡目に。釜石市大町のテットで26日まで原画などの絵画展を開き、支援への感謝を伝える。

小山さんらが2013年冬に始動し、盛岡一高勤務時代の教え子だった紺野代表(66)ら同窓生を中心に輪が広がった。1990年代の大槌高在職時に沿岸各地で絵を描いていた小山さんが、在りし日の風景を表紙絵にしたノートをイベントなどで販売し、資金に充ててきた。

図書カードの寄贈は14年、大槌小・中(現大槌学園)を皮切りにスタート。当時を知る外館憲子副学園長(59)は「図書カードは自分たちで本を選ぶこともできてありがたかった」と感謝する。

24日に同学園を訪れた紺野代表は「夢がないと前に

ノート販売益金で子ども支援 ブック・エンド・ドリーム・プロジェクト(盛岡)

表紙原画含む絵画展

釜石できょうまで



会場に展示する「大槌湾の夕映え」。小山卓也さん(左から2人目)、紺野衆代表(同3人目)らが息の長い活動が続けている

進めない。本の力で夢を持つてもらいたかった。微々たる力でも役に立ったかなと振り返る。活動は今後も続けるが、メンバーの高齢化から規模縮小を検討している。

絵画展は原画を含めた15点で「大槌湾の夕映え」は生徒も一部に筆を入れた作。小山さんは「昔の海的美しさを見て、当時の風景を思ってもらえればうれし

い」と来場を呼びかける。午前9時半～午後4時。会場にはメンバーで大船渡市出身の画家三浦千波さん(68)＝川崎市Ⅱの作品も展示する。小山さんの書籍も販売し、売り上げの一部を活動資金とする。

問い合わせは事務局の興版社・三浦満春さん(090・4556・1852)へ。

(小平存野)